

帯广大谷高等学校

校長 大西正宏様

学校関係者評価委員会

委員長 山田敏明

## 2016年度帯广大谷高等学校学校関係者評価報告書

この度、2016年度帯广大谷高等学校「自己評価報告書」について、学校評価規程第16条に基づき評価を行いましたのでご報告いたします。

### 評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念・教育目標・学校目標について

親鸞聖人の本願念仏の教えを建学の精神としている。大いなる「いのち」に目覚め、人間として生きる喜びを見出すことを願いとしている。

この建学の精神により導き出された教育理念・教育目標等について、学園をあげて周知に努めている点、生徒と教職員が共通理解をし、様々な取り組みがなされている点が評価できる。

また、企画運営委員会及び教育体制推進委員会が中心となって、教育目標や学校目標が時代や社会の変化と合致しているかなど定期的な検証がなされている。変更がある場合には職員会議や総括会議の承認を経て実施されている点も評価できる。

### 評価領域Ⅱ 分掌について

学習指導においては、教科の会議や学習指導委員会(教科主任の会議)で学力向上について、精力的な論議が行われている。これは近年の教育力向上につながっていると推察され評価できる。

生活指導においては、建学の精神に基づく情操教育と各クラブ活動の顧問の指導が加わり、生徒たちは節度ある落ち着いた高校生活を送っている点が評価できる。また、学校を訪問した際の生徒たちの挨拶は形骸化されたものではないと感じた。

進路指導においては、進学では各種オープンキャンパスや相談会を積極的に案内したり、進路相談室と図書館に各校の案内や赤本などを閲覧可能にしている。また、今年度からは、今まで生徒が受験した学校の内容をデータベース化し、担任を通じてよりスムーズに情報提供ができるように改善した。就職ではハローワークやジョブカフェと連絡を密にし、生徒を多角的に指導できるように工夫している点が評価できる。

### 評価領域Ⅲ 管理運営について

理事会の運営においては、短期大学・高等学校・幼稚園の将来構想確立に向け、的確な意思決定機関として機能している点が評価できる。

評議員会の運営においては、19名の委員各自の意見が反映され、適切な判断に基づいて行われている点が評価できる。

監事の業務においては、2名の監事が寄付行為の規定を遵守し、学園経営に適切な助言・指導を行っている点が評価できる。

校内運営においては、教育現場の運営は原則民主的に遂行されるべきもので、教職員のコンセンサスをもってより高い教育効果が期待できるものと考ええる。しかしながら、現場の教員に学校経営の視野に立って判断を委ねるには限界があり、状況に合わせて適切な判断と助言を提示しながら民主的な決定を図ることが必要であると思われる。

#### 評価領域Ⅳ 財務について

当該年度における高等学校の収支差額は33,502,917円の収入超過であった。

管理運営費補助金が見込みよりも大幅に下回った減少要因はあったものの、平均年齢が低いことにより、人件費額が抑制されているほか、経費についても増加傾向を示す科目はあるものの、総じて抑制されたためと考えられる。

4年後に1名の定年退職者が予定されているが、その後しばらくは定年退職者が予定されておらず、人件費は増加していくことが見込まれているほか、築40年を迎えようとしている校舎に対応するための資金確保及び生徒数減に伴う収入源等、財務のマイナス要因を多数抱えている。

生徒数の増加が見込めない中、学校経営規模をどの程度に設定して運営をするかが大きな課題である。適切な規模を見極め、人事計画や施設設備計画を策定する必要がある。

#### 評価領域Ⅴ 改革・改善について

帯広大谷高等学校学校評価規程に基づいた自己評価、学年校務分掌等の総括会議、職員会議で、現状の課題を検証し、次年度に活かしている点が評価できる。

また、教育内容の充実に向けて、道内外の高校と大学の視察を行い、進学実績の向上につながる取り組みをしている点も評価できる。

#### 評価領域Ⅵ 学校評価アンケートについて

学校生活・授業においては、充実していると感じている。また、学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われていると感じている。

進路指導においては、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われていると感じている。今後受験方法の多様化に対応できるよう新しい情報をキャッチし、的確な進路指導を心がけていくとしている点が評価できる。

部活動においては、活発に行われていると感じている。今後も心身の健全育成のために部活動の充実を図っていくとしている点が評価できる。

いのちを大切に教育においては、しっかり行われていると感じている。今後も「いのちの尊さ」と人間としての「生き方」をしっかりと教えていくとしている点が評価できる。

いじめ防止においては、ほとんどの生徒が、学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいると感じている。今後も、学年団、いじめ対策委員会をはじめ、教職員全体で、いじめの早期発見に取り組んでいくとしている点が評価できる。

以上のように、帯広大谷高等学校に対して、およそ9割以上の生徒・保護者が満足している結果であることから教職員の取り組みが評価できる。

## むすび

帯広大谷高等学校がさらに生徒及び地域社会から信頼される学校となるには、公立高校よりも質の高い教育活動を実践していく必要があります。20年前と比較すると、進学実績の向上、部活動の活性化が見られ、地域から信頼される学校になってきたと思います。今後も、生徒・保護者・時代のニーズに応えられるよう多角的な検討を期待しております。また、この報告書が、学校改革・教育活動改善等のために少しでもお役に立てれば幸甚です。今後の貴校の発展を衷心より念じ申し上げます。

以 上